

# 仙台教区報

発行所 カトリック仙台司教区  
 仙台市青葉区本町一丁目2番12号  
 ☎ 〇二二・二二二・七三七一  
 編集・発行人 笹 氣 直 哉

Autumn

## 仙台教区の生涯養成



一九八九年九月の第二十五回司牧評議会定例会議によってスタートした仙台教区生涯養成委員会は、約一年を経て「みことばを、共に生きる」―分かち合いの手引き―を発行するに至りました。

「生涯養成」の必要性を問われて、すでに多くの年月が過ぎ去りました。しかし、教区民の地道な活動と忍耐強さによって、まずは第一歩が踏み出されようとしています。

☆ すべての出来事に意味がある

信仰とは生きかたです。生きかたとは、身の回りに起きるすべての出来事を読み取っていくことでしよう。読み取るときには、基準が必要です。その基準を福音の価値基準に置いて読み取る人がキリスト者なのではないでしょうか。そうであるなら、取り敢えず私たちに必要なことは、より福音について知ることにしたいと思います。

福音書を読む。聖書を読むことがどうしてもキリスト者にとって必要不可欠なことになります。

☆ 信仰の目と耳を育てる

教区の生涯養成委員会が今年三月に出した「生涯養成実施計画」の中に、以下のことが指摘されています。

「受洗後、多くの年月を経て、気がつかないうちに世間的な価値観や流れに影響されいつの間にか福音的な基準や価値観が実生活の中で薄らいでしまいか、あるいは弱まり、やがては信仰と生活との分離が始まるのではなからうか。このように、信仰が実際の生き方に対して殆ど意味を持たなくなるとき、もう一度信仰そのものが根底から問われる。」

したがって、信仰の実態に気づき、見直しさらに本来のキリスト者の生き方を生涯かけて身につけて行くのが「生涯養成」の第一のねらいではなからうか。

そのために、どうしても信仰の目と耳、すなわち日々体験する現実を真に福音の基準でとらえることを体得しなければならぬ。特に基本的な方法として、聖書を正しく学びながら、この信仰の見方を発見し、それを実践

的に身につけなければならぬ。

すなわち、生きた信仰とは、あくまでも具体的な現実の真つ只中で、神の思いと働きに気づき、目覚めることである。この点で、聖書の民は自分たちの人生の歩み、民俗の歴史の中で、「神を感じる」という信仰の感性を徹底して幼いときから親に訓練されながら体得していた。つまり、信仰の目と耳とを育てるための具体的養成を受けていた。だからこそ、信仰は必ず次の世代へしっかりと伝えられていたのである。(中略)

そのために、集まって聖書を聖霊の照らしの中で読み、生の生活体験を通して実感し、味わうことから始めるとよい。(中略)

結局、今、とにかく各地で二人三人から始めることができるのは、この「み言葉の分かち合い」である。今まで、カトリック者がいだいていた聖書に対する敬遠を取り除いて、もつと聖霊にそしてお互いに信頼しながら、この輪を広げていくことが肝心である。

(九十年三月二十一日付、仙台教区生涯養成委員会・委員長佐々木博師・「仙台教区『生涯養成』実施計画」から抜粋)

☆ これから

「みことばを、今、共に生きる」というタイトルで分かち合いの手引書が皆さんのお手元に届きました。様々な工夫を凝らして利用していただき、当然あると思われる今後のための要望や使い易くするための忌憚のないご指摘を是非教区事務所・生涯養成委員会までお寄せくださいますようお願いいたします。

## 第二十七回 司牧評議会 定例会議開催

九月二十四日(月)午前十一時から仙台・カトリック元寺小路教会・信徒館において第二十七回司牧評議会定例会議が、佐藤司教以下二十三名の評議員によって開催された。

討議された議題は、「人権問題、社会福祉問題に関する活動の推進について」以下の提案理由で検討された。

「福音の価値観に基づいて人権福祉問題に関する啓蒙を行い、情報を提供し、既に活動しているグループとの連携・バックアップ等を行いながら、教区全体の意識を高め、社会とともに歩む開かれた教会の実現を目指す活動を推進する」ことを目的とした『教区の委員会を設置する』こと。

討議・検討に先立って、教区内で既に活動しているグループ(福島県カトリック障害者連絡協議会・清水氏。カソック仙台・青山氏。アムネスティ・インターナショナル仙台支部・シスター赤間氏。仙台・正義と平和協議会藤原氏)の代表者によって、活動内容と教区への要望などが参考として発表された。

### ☆ 検討内容

紹介されたグループのような活動が、教区内で他にも様々な形態で行われていると思われる。そのような活動に対して、教区としてどのような委員会を設置していくべきか各地

区の代表者によって発表された。

主な内容は、具体的に活動していることの報告と司祭の意識の相違によって対応がはつきり異なってくるという指摘であった。また信徒数の多い少ないで活動していくことの意味や行動が異なることも上げられた。

そのような意見が出された中で、際立った二つの意見があった。

◎人権・社会問題にどう対応するかをセンスを養っていかなければならぬ。特に、青年たちにどう伝えていくかが大事である。目の前のことも大事だが、育てていかなければならぬ。

◎人権・社会問題に関わる時、お手伝いとして関わるのか、教会そのもの、信仰そのものがそうさせるのか。この違いは大きい。

### ☆ 審議の結果

教区の委員会を設置することが望ましいかという役員会の提案に対して賛同し、お手伝いとしての役割ではなく、教会本来の姿としてやっていくべきものであるから、具体的な委員会を設置に向けて役員会が検討し、次回定例会議までに取りまとめたいことが満場一致で採択された。

### ☆ 話題・報告

1. 「小教区のあり方」アンケートのまとめについて

◎今回のアンケート調査は各小教区の責任ある方に書いていただいたので、今後は信徒同士が皆で話し合っていくようにしたいと考えている。

2. カトリック仙台司教区センター建設の動きについて

◎現在、三十五の小教区から募金報告書を提出していただいています。順調な募金状況で有り難いことです。詳細は「教区センター建設ニュース」をご覧ください。

◎なお、納骨堂については、墓地委員会のほうで、希望者が確保できる見通しがたれば墓地委員会独自の資金計画で取り組んでいくというものです。

3. 教区財政問題評議会からの報告

◎各小教区の財政委員から詳細をお聞きください。

4. 教区生涯養成委員会の活動について  
◎当面は、「みことばを、今、ともに生きる」という手引書を作成すること。これは、委員長の佐々木博師が主に案を練り、委員会のメンバーによって仕上げている。

◎みことばによって生涯信仰を養成していくことをねらいにしている。ようやく創世記十一章まで作成した。全部で五十課の予定なので時間はかかると思われる。

◎小教区によって、様々な違いがあるので簡単ではないが、皆の意見を聞きながらやっていきたい。

◎まだ具体的ではないが、今後の課題として生涯養成コースのことも考えている。

◎できるだけ分かり易い簡単な言葉遣いを心掛けて作成していければと考えている。

5. 第二回福音宣教推進全国会議について  
教から簡単な説明がなされた。以上





宮城・福島

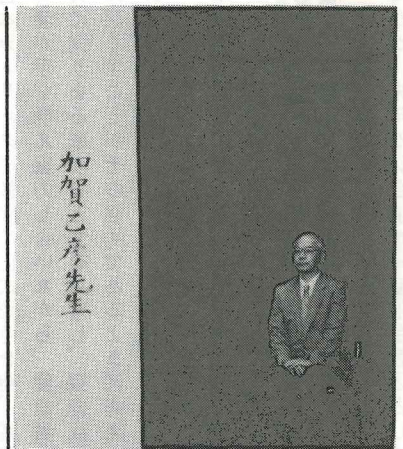
カトリック

県大会開催



第十八回カトリック宮城県大会が七月一日(日)仙台・白百合学園・講堂において開催された。テーマは「激動の世に生きる教会・私の信仰」。

大会は午前中の第一部と午後の第二部に分けられ、午前の部では、年頭司教書簡を受けて「これからの小教区を考える」をテーマにし、五人の代表者による報告会の形をとった。午後は、加賀乙彦氏(写真上段左・同中段右)による講演会となった。「キリスト教と私」のテーマで、市内の一般の方々も参加し九百名という参加を得た。著書「キリスト教への道」(みくに書房刊)に既にあるとりの内容であったが、直接、面前で語りかける



加賀乙彦先生

軽妙で飽きさせない、それでいて核心のついた信仰者への道のりの言葉は聴衆を魅了し、大きな励ましとなった。

第二十回福島県カトリックの集いは九月十五日(土)会津若松・ザベリオ学園・講堂において開催された。テーマは「社会の中で『ミサ』を生きるには」とし、昨年のテーマの「エウカリスチア」を内容として引き継いだものとなった。

大会の前に各小教区で話し合えるようにアンケート調査を行い、大切な「ミサ」だからこそ二年にわたってテーマとしたことは、今後の仙台教区内の各県カトリック大会に対して、貴重な試みとなった。二百五十名の参加者は、来年浜通りでの再会を約束して散会した。

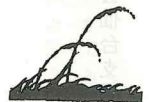
・・・・・・・・・・・・・・・・

司教の日程



10月1日～6日 教区司祭団黙想会

10月7日	白河教会堅信式
9日	教区司祭団役員会
11～13日	カリタス・ジャパン
14日	郡山教会堅信式
15日	仙台OK役員会
17日	Y2懇談会 (東京)
18日	カリタス・ジャパン
19～20日	岩手カトリック幼連研修会(盛岡)
25～27日	カトリック医療施設協議会(札幌)
29日	教区司祭団月例会
30日	学法理事会
31日	社会司教委員会 (東京)
11月1日	常任司教委員会 (東京)
4日	大船渡教会堅信式
7～9日	O・J・担当者会議(京都)
11日	塩釜教会堅信式
12日	司祭評議会
15日	カリタス・ジャパン
18日	弘前教会堅信式
19日	カリタス・ジャパン
22日	本部スタッフ会議
23日	教区修女連院長会
25日	水沢教会堅信式
29日	常任司教委員会 (東京)
2日	塩釜教会(終生誓願式)
3～4日	教区司祭団月例会
8～9日	八戸塩町教会
11～14日	臨時司教総会 (東京)
16日	原町教会堅信式
21日	白百合短大25周年記念行事
25日	降誕祭





### 「小教区のあり方」 についてのアンケートから



仙台教区司牧評議会役員会は、去る七月八日付けで、各小教区の現状・問題点・今後の対策について全教区民に考えていただくためのアンケートを各小教区の代表の方々に送り、その調査結果をまとめた。

回答は、五十七教会のうち三十五の教会からあつた。ここにその詳細を掲載しませんが、今後の話し合いのポイントになると思われることを取り上げておきたいと思えます。

☆小教区の将来について三十の小教区が話し合ったと回答している。関心の高さを示している数字である。小教区の維持・管理・運営や会計・典礼などの役割分担について、また、信仰に関わる問題として、宣教活動や青少年の育成についてよく話し合っているようである。関心の高さの背景には、司祭が不在になつたらという危機感が手伝わっているようである。確かに司祭の高齢化と神学生の減少は小教区を直撃する問題である。教区全体を見渡せる視野が必要になつてくるだろう。

☆維持・管理・運営や役割分担の見直しは大事であるが、現状維持の姿勢を免れ得ない宣教活動や後継者（青少年）への対応についての積極的な行動が要求されているのかも知れない。

☆取り敢えず、仲間同志での交流をはかり

関わりを深めていこうとする姿勢が強く出ている。近隣の他小教区との交流に高い関心が寄せられている。お互いの良いところを学びあつていい刺激になつているようである。

しかし、距離が遠かつたり、意識が高まつておらず困難な状況の小教区もあり、そう簡単ではないようである。そんな中にあつて、司祭の理解が得られないという声もあり、司祭の生涯養成の必要性を改めて痛感する思いである。

☆コミュニケーションの出发点は、顔と顔を合わせるからでしょうか。

#### カトリック障害者連絡協議会（カ障連）

##### 総会開催について

カ障連は、一九八二年七月に発足し、視覚・肢体不自由・内部疾患などの障害者の会を構成団体とした協議会であり、同年十二月日本カトリック司教団の正式認可を得、諸障害者が手を携え協力し合いながら、健常者と共に突りある恵みのときを共有し、福音宣教に尽くすことがその目的であるように考えられます。

総会（全国大会）は、三年に一度開かれ来年は第四回目にあたり、九十一年九月二十八二十九日に仙台で開催されることになり、カソック仙台（病者・障害者の会）が受け皿となり、実施に移す構想を企画しております。岩手県・青森県の方はどんな状況なのでしょう。来年の総会前に一度仙台教区として

の集会を持れば良いのですが、それができないまでも、せめて会員名簿だけは作りたいたいと考えております。

来年のカ障連総会には、病者・障害者そして、この会に関心をもつてご協力下さる方々にも沢山参加していただき、障害者同志・障害者と健常者との心の触れ合いの場として「共に生きる喜び」を分かちあおうではありませんか。

カソック仙台（カトリック元寺小路教会内）事務局 仙台市青葉区旭ヶ丘二の三七の三三 電話 〇二二 二七一 四一八一

#### カトリック・ナース集まれ!

JONA（日本カトリック看護協会）は、キリストの心を心とし、キリストの愛をもつて、病む兄弟姉妹に奉仕したいと望む人たちの集まりです。主に望まれる看護を目指し、一緒に歩んでみませんか。

【対象】保健婦、助産婦、看護婦（士）、准看護婦（士）、看護助手、その他医療従事者、看護学生。

仙台支部は、仙台教区（四県）がひとつの支部です。信者の方だけでなく、興味のある方はどなたでも会員になれます。

##### 【問い合わせ】

仙台市宮城野区東仙台六の七の一  
光ヶ丘スベルマン病院内JONA仙台支部  
支部長 堤 澄子まで